様式３

会　議　記　録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

<table>
<tr><td>審議会等名称</td><td colspan="3">令和８年度 第１回近江八幡市総合教育会議</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">令和８年８月２１日（金）１４時００分～１５時１５分</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td colspan="3">近江八幡市役所 ３階 応接室（近江八幡市桜宮町２３６番地）</td></tr>
<tr><td>出席者
※会長等◎
副会長等○</td><td colspan="3">出席者(敬称略)
市　長　徳永 久志（◎）
教育長　安田 全男
教育長職務代理者　重森 恵津子
教育委員会委員　西田 佳成、大更 秀尚

欠席者
教育委員会委員　圓山 淳子

事務局
総合政策部企画課
教育委員会事務局教育総務課

出席所属
教育委員会事務局学校教育課、生涯学習課

傍聴者　なし</td></tr>
<tr><td>次回開催予定日</td><td colspan="3">令和８年１２月中旬</td></tr>
<tr><td>問い合わせ先</td><td colspan="3">所属名、担当者名　総合政策部企画課　山田、中川
電話番号　　０７４８-３６-５５２７
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　　010202@city.omihachiman.lg.jp</td></tr>
<tr><td>会議記録</td><td>発言記録 ・ 要約</td><td>要約した理由</td><td>内容を整理して、分かりやすく記録として残すため</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="3">別紙のとおり</td></tr>
</table>

担当課⇒総務課

＜会議記録（要約）＞

１．開　会

事　務　局　省　略

２．挨　拶

市　　長　省　略

３．（報告事項）第３期近江八幡市教育大綱に係る策定のポイントについて

事　務　局
- 資料に基づき、事務局より説明。

４．議　題

これからの近江八幡市の教育行政について

市　　長
- ４月に市長に就任をして最初の機会のため、個別の施策や政策ではなく、教育の考え方について、これまでの経験を踏まえてお話をする。
- 市長選挙や就任以来、これからは変化への対応を縦軸に、そして本質の追及を横軸にした、重層的な近江八幡市政を作り上げたいと言ってきた。それは教育についても当てはまる。
- 教育大綱の基本理念のイラストで、横から見ると出発点から登っていく人は一段一段少しずつ上がってステップアップしていくが、上から見たときには回って同じところにいる。同じところにいるという部分が本質の部分であり、変化への対応を通じてステップアップを図っている。そういったイメージを持っている。
- ＡＩを中心としたデジタル技術は、おそらく社会の有り様を根幹から変える状況になる。
- 明治維新の時の人口が約 3,000 万人。現在は人口減少の局面。今までの人口増加を想定したモデルから、人口が減少していくことを考えたシステムに転換中であり、その真っ只中に子どもたちは生きている。
- AI の進化・発展は社会のあり方を変えてきている。AI の進化は問いを投げかけてくる変化に的確に対応をするというのが極めて重要である。
- 地球が始まって以来、何億もの生物の種が現れ、絶滅をして、残っているのが現在の動物、植物。なぜ生き残れているのか。それは強いからではない、大きいからではない、力があるからではない。変化する環境に適応できた種のみが今も現存している。これが変化への対応の１つの根本的な考え方であると思っている。
- 時代が変わっても変えてはならないもの、守らなければならないもの、本質的な部分が必ずある。これを本質の追及と言っている。例えば真・善・美という考え、この部分については、時代や社会が変わろうとも追及していくべき。
- 本質の追求をし、変化への対応を図る部分を、教育の中でも子どもた

ちの育ち、学びをより充実したものにするために、１つの捉え方として、教育委員の皆様方にもご参考にしていただきたい。

- 教育の本質とは何なのか。子どもたちの育ち、学びを導くにあたって、その本質となるべきものは何なのか。何を追求していくべきなのか。といったことは、議論をし、様々な場面で追求をしていただきたい。
- 教育大綱を読んで、近江八幡市の教育が求めるべき本質の部分という言葉が書かれてあると思った。
- 近江八幡市が追い求めている教育の本質は、いかに子どもたちに生き抜く力をつけてもらうか。こういった部分も追求をしていくということでいいと思っている。
- 野生動物の生態を描いたドキュメンタリー番組内で、シマウマの親子がいて、その子どもの成長過程を、親子を通じてドキュメンタリーで追って、ナレーションで「こうして、この赤ちゃんシマウマは大自然の中で生き抜く力を蓄えていきます」といった締め言葉で大抵終わる。
- その「生き抜く力」が大自然の中で生き抜いていく、あるいは厳しい生存競争の中で必要とされる能力を「生き抜く力」と、その番組は言っている。それがずっと頭に残っている。
- 現在は、大自然の中で生存競争に勝ち抜く、そこまでいかなくても、様々な社会の変化に対しての困難な局面において頑張り抜く力、突破する力、自分らしく生きる自己実現の力など、どんな状況にあっても自分らしく生きることができる力を育んでいくことが、追求すべき近江八幡市の教育の本質だと思う。
- 「生き抜く力」を子どもたちに身につけてもらうためには、具体的にどういう取組が必要なのだろうという所に行きつく。ここをどう考えるかというのは、それぞれ現場での肌感覚や日々子どもと接している先生方の思いもあるし、そこは大いに議論をしたら良いと思う。
- 「生き抜く力」を身につけてもらうための理想的なあり方として、「型破りな人間をぜひ育てようじゃないか。」という考えがある。
- 「型を知っている人は型破りな人間として評価される」と思う。型を知らずに違うことをやっている人はマイナスの評価に陥るのではないかと思う。型を知っているからこそ世間において評価される人になる。
- 世の中で「あの人、型破りな経営者だ」とか「あの人、型破りな人物だ」と言って評価されている人は結構いる。
- 例えば、大谷翔平選手。野球の打ち方や投げ方の型にはまっているが、彼は投げるも打つもするのは、今までやった人がいないから型破りだと言われている。
- 松下電器を創設した松下幸之助さんは、小学校を出てすぐに丁稚奉公

に出て、商売のあり方を勉強している。丁稚に入って親方のやり方をじっくり見て、型を覚える。型を覚えた上で自分が商売を立ち上げた時に型を破らないと上にはいけない、事業が大きくならないといった時に、型破りと言われるような状況が作れることで、評価される存在になっていく。

- その型というものをしっかりと教えてほしい。その型が整理されているのが、学校で使われている教科書だと思うし、教科書以外で先生方が授業で使っている学習教材の中にも、しっかりとマスターしてほしいことが型として詰め込まれている。少なくとも小学校、中学校、我々が責任を持たなければいけない間は、この型の部分をしっかりと教え込んでしてほしい。
- 「マニュアル人間を作ろうとしているのか」とよく批判される。それはそれで半分頷くが、半分反論したい。
- 様々な経営者に「若い子がようやく一人前の社員になった。」「ようやく一通りの仕事を覚えてくれた」と言われた時に、「どういうことやったんですか？」と聞くと、マニュアルどおりの仕事をこなしてくれることを、多くの人は「やっと一人前になった」と言う。なかなかマニュアルどおりの仕事をこなせる人がいないという言い方をする人が割と多い。
- マニュアルどおりこなせるということは、一定の評価をしっかりとするべき。マニュアルどおりの仕事ができないのに、違うことやったらそれはやっぱり違うと思う。
- マスメディアが発達する前は、言葉で表すことのできない知恵が大きな価値を持っていた社会だったと思う。職人の世界や家事労働の世界では、技術が知恵として身についていくものであって、決してそれは言葉で代々伝わるという話ではなかった。
- マスメディアが出現し、言葉で表される知識を多くの人々に伝えることを生業としてきた。その言葉にはできない知恵よりも、言葉で表すことのできる知識をみんながありがたがるようになった。その行き着く先が今の IT 技術の発展であり、SNS 等で溢れる情報であり、AI の進化によって、その恩恵が最大限今、表されている。
- 今までは、言葉で表される知識を得るためには学校に通ったり、書物を一生懸命めくっていかなくてはならなかった。しかし、今は IT 技術、デジタル技術、AI によって瞬時に得ることができるようになった。
- これからは、子どもたちがスマホを手に取って AI に物事を尋ねる状況が、すでに進んできている。それはもう避けられないと思う。
- どのような問いを立てて、その答えを実行するかどうか。その答えを受けて、どう自分は身の振る舞いや言動を処していくのかといった部分が、これから強く求められる。そういった部分は言葉で表される知

識ではない。AI が答えを出してくれた時に、自分はどうしたらいいのだろうと考えたとき、これは知識では表せない。

- マスメディアが発達する以前に価値を持っていた、言葉で表すことのできない知恵が必要な時代に戻るのではないかと最近痛感している。
- 言葉で表すことのできない知恵はどうすれば身につくのか、これに正解はない。ただ、１点だけ私が言えるのは、小さいうちから様々な体験や経験を積み重ねている人は、様々な知恵が身につく。これはほぼ間違いないと思う。こういった部分をこれからの学校教育の中で充実させていってほしい。
- 日本の社会のこれからの大きな問題点に格差社会がある。経済格差の拡大と、その拡大が固定化されてしまうことが大きな課題だと思う。経済的な格差において、親の経済力によって子どもの学力が決まってくるデータや、親の経済力や環境によって、子どもが成人するまでの体験格差が報告されている。
- 近江八幡市においては、できるだけその格差を縮めていきたい。体験や経験によって知恵の量が異なるなら、AI に問いかける問いや、その答えをどう処していくかに問われてくる部分にも影響を及ぼすことになる。
- 親の経済力に関係なく、近江八幡市にいる子どもたちに色々な経験や体験を積ませてあげたい。そのプログラム的な部分についても、ぜひ教育委員会でもご検討いただきたい。
- 以前、ある親御さんから市内某小学校の修学旅行先が長命寺の国民休暇村だと聞いた。ガッカリして、うちの子が泣いていますといった話を聞いたことがある。その言葉が心に突き刺さっている。
- 様々な事情があり、学校の校長先生をはじめ関係者としては苦渋の選択だったと思う。だからこそ、そういった子どもたちも他の学校の子どもたちと同様に、ディズニーランドや USJ に行ってもいいし、新幹線や飛行機に乗せてあげることで、外国人の方や全身民族衣装を被っている方などを見るだけでも、言葉で表すことのできないものが身についていくと思う。
- 型を身につけたからこそ世間で評価される型破りな人材が生まれて、AI がどれだけ進化しても、最後の行動、最後の問いを立てる力、AI が出してきてくれた答えの対応をどうするのかは、人間が身につけていく能力であり、それを念頭においた教育であってほしい。
- 社会に出てすぐに役立つ知識を付けさせなければいけないと言う人はたくさんいる。それの全てを否定するわけではないが、世の中に出てすぐに役立つ知識や技術は、すぐに役立たなくなると思う。
- 義務教育をお預かりするものとしては、型を繰り返し身につけてもらうということが重要だと思っている。
- よくテストの点数至上主義ではいけないというが、テストは、身につ

	けた型を再現する場だと思っている。先ほどのマニュアルどおりの仕事ができるかどうかという話で、ペーパーテストにおいても、制限時間の中で、身につけた型をどれだけ再現できるかという能力が試されていると思う。
委　　員	■ 変化への対応や本質の追及についてはよくわかる。学び方を学ぶのが小学校であり、中学校はそれをもう少し一歩進めていく場で、小学校で様々な知識を蓄えるのも大事なことだと思っている。
	■ 社会に出たときに運転免許証がもらえるだけの知識、能力が無いと様々な所で働くとこができないし、将来納税者として我々を支えてくれないだろうと教育委員会定例会の中で話をした。
	■ 型を学ぶこと、基礎基本を学ぶ部分はすごく大事だと思っている。
	■ 知識というのは実感を伴っていないといけない、実感を伴った知識ではないといけないと言われたことがあり、学びを進めていく中で、経験や体験はとても大事だと思っている。
	■ 教育格差は、賃金格差や生活格差が非常に大きく、学校で経験させていないと、一生経験しないのではないかという学びも中にはある。
	■ 以前はスキー教室があり、今はスキーや雪と戯れる経験は基本的には無いので、無くすのは最後まで抵抗した。
	■ どの子もどの学校に行っても全員同じ力をつけるのが基本。
	■ 教育委員会で家庭を支援するのは難しいため、国や県、市によって教育における賃金や生活による格差が少しでもなくなればありがたい。
市　　長	■ 小学校は学び方を学ぶ場所で、四則演算もそうだが、学び方も型だと思う。
	■ 憲法の国民の三大義務で、親御さんたちは、教育を受けさせる義務を果たしてくれている。義務を果たしているのになぜお金が取られているのか。例えば、税務署で税金を払った時に、手数料でまた１万円取られたら暴動が起きる。
	■ 修学旅行の費用や学習教材、体操服など、義務教育段階は全て無償にすべきだというのが持論である。
委　　員	■ 第３期の大綱の中の、「しなやかに生き抜く力」というのが大事だと思っている。
	■ それぞれの発達段階の子どもが自分の考えをしっかり持って、それを説明しきれることが大事だと思った。
	■ 時には寄り道も大事だと思う。寄り道で学ぶこともたくさんある。その道のり、生き方をたくさん用意してあげて、その子なりの成長を見つめ続け、しっかりとした意見をもって生きる子になってほしいと思った。
市　　長	■ 寄り道は大事。本人は寄り道ではなく、通らなければならない道のつもりでも、第三者や学校から見たら寄り道以外何物でもないというギャップが当然出てくる。そこをどう見てあげるかが、大事な課題。

委　　員	■ 私は想定できないことが起こるということを想定しておかないといけない時代だと思っている。 ■ スマホで調べたら何でも出てくる。調べている中には、まともな答えもあれば、嘘偽りもたくさんある。その中で、何が正しいのか、何が嘘なのかを見抜く力というのがすごく大切だと思う。 ■ 今、どんどん変化のスピードが速くなっていると思う。携帯電話が世の中に出て 35 年くらい。昔は肩から掛けて、アンテナ伸ばしてというのが当たり前だった。今はスマホで電話や買い物、調べ物、銀行口座の管理までできる。結局これに対応していかなければいけない。 ■ 正しいものと間違っているものを判断していくために、型というものを子どもたちが義務教育のうちに身に着けておいてほしい。
市　　長	■ 生きていくうえで何が正しいのか、何が真実なのか、何が善なのか、何が美しいのかという部分は、本質的な部分。そこは、どんな時代でも追及していかないといけないし、近江八幡に限らず人づくりの本質の部分に置きたい。
教　育　長	■ 本質の追及、それから教育の本質とは生き抜く力であるというお話や、型と型破りのお話を聞かせていただいて、まったくそのとおりだと実感した。 ■ 教育委員会では第３期教育振興基本計画の策定に向かって取組を進めているところ。 ■ 策定中の教育振興基本計画の中に、しっかりと基礎学力を徹底することと、併せて基礎体力を養うことを、「型」として、計画に入れ込もうとしている。 ■ 基礎学力、基礎体力の型をしっかり作ったうえで、その型を破るような人材の育成として、体験をどんどん積み重ねる教育を計画の中にもしっかりと取り込んでいこうと思っている。 ■ 一方で、国が学習指導要領の改訂に取り組んでいて、いくつか大きな変更を発表予定であり、令和８年度末には学習指導要領を改訂したものが告示される。 ■ 小学校は令和１２年度から、中学校は令和１３年度から新しい学習指導要領に基づいた教育が全国で実装される。また、令和１０年度から前倒しでできないかとか、特例校として令和９年度から先取りしてはどうかという取組も実施される。 ■ 小学校と中学校がそれぞれ授業時間を５分間減らすことによって、１年間で１２７コマの時間が生み出される。その時間で、子どもたちの体験学習や探究学習、基礎学力徹底学習などを学校の責任において自由に作れる。 ■ 小学校では情報学領域、中学校では情報技術という教科を立ち上げ、それに使う時間は余白の創出により生み出されたコマから情報の授業が先取りしてしまう。

■ 今までどおりであれば、生み出されたコマが子どもたちの体験や探究、復習学習など、学校の事情に応じて自由にできた時間が、AI や IT 学習のために削られる状況が明らかになってきている。

■ 本市では体験格差を起こさせない教育をさせていただけるのであれば非常にありがたい。

■ 修学旅行のお話は、子どもたちの経済格差だけから県内になったものではなく、教育的配慮も含めた中で、限られた予算、ご家庭の経済力などを総合的に考えた結果、そうなった可能性がある。

■ 経済格差のある家庭への公費負担や、インクルーシブ教育への対応として医師・看護師の同行・宿泊場所の確保を行えば、沖縄や広島での平和学習は皆で参加できる。こうした発想の教育を展開できれば、市長が掲げる本市独自の教育を実現できる。

■ 予算を伴うため、できることに限度があるが、そういう発想で、子ども目線で教育を進めていくことができればありがたい。

市　　長　■ 変化への対応として、タブレットや、英語の授業を増やすのは違うと思う。情報技術や英語は自然と身につくことを考えると、昔ながらの読み書きそろばんを徹底した方が型を作るのにいいのではないかと思う。

５．事務連絡

事　務　局　▪ 第２回総合教育会議は、１２月中旬を予定している。

▪ 「近江八幡市教育振興基本計画」に関連した議題で調整する。

６．閉　会

事　務　局　省　略

終了時刻：１５時１５分